**Ｈ30試験研究課題評価一覧（概要）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 部会 | 評価  区分 | 試験研究課題名 | 部会  評価 | 外部  評価 | 試験  期間 | 対応方向 |
| 農産部会 | 事前 | 斑点米カメムシ抵抗性早生品種の開発 | A | A | H31～35 | ・戻し交配の回数の少ない試作系統から、順次、生産力検定等を実施することにより「てんたかく」との農業形質の相違を早期に把握し、完成度の高い品種となるよう努めてまいりたい。  ・割れ籾が少ない特性を発揮させる遺伝領域が特定されれば、他の品種にもその遺伝領域を導入することが可能であり、将来的に本研究での成果を活かしてまいりたい。 |
| 事前 | 新規被覆肥料を用いた全量基肥肥料の開発 | A | A | H31～32 | ・関係機関と連携し、現地実証を行い早期の普及を目指す。  ・環境影響評価について、肥料生産メーカー等とも協力しながら、情報の収集に努めたい。  ・崩壊性が高い被覆肥料のラインナップの充実をメーカーに求めるとともに、品種、作物に応じた施肥技術の確立を目指したい。 |
| 事後 | 新とやまブランド米開発加速化事業 | A | A | H26～29 | ・青未熟粒の低減や田植時期の早期化など、引き続き、栽培技術による改善と対策を進める。 |
| 園芸部会 | 事前 | ニホンナシ黒星病における芽基部病斑の発生軽減対策 | A | A | H31～32 | ・成果の現場還元については、関係機関と協力して落葉処理（落葉上の子のう胞子による一次感染の防止対策）等と合わせた総合的なナシ黒星病発生軽減対策として発信していきたい。  ・耐病性品種については、現在（国研）農研機構で育成された系統について本県での適応性を確認しているところである。また必要に応じ、食味良好で生産性の高い耐病性品種の育成について、（国研）農研機構には今後とも要望していく。 |
| 事後 | 新たな産地拡大を目指したニンジン等の品質向上技術開発 | A | A | H27～29 | ・普及現場と密接に連携し、県内巡回や研修会等の園振協の活動を通して技術の着実な普及を図り、収量品質の向上、コスト低減につながるよう努める。  ・栽培マニュアルや成果情報については、指導者や生産者がわかりやすく、活用しやすい内容となるように作成する。 |
| 事後 | タマネギ新作型開発と水田輪作におけるタマネギ栽培の体系化 | A | A | H27～29 | ・普及現場と密接に連携し、技術のブラッシュアップに努めるとともに、県内巡回や研修会等の園振協の活動を通して技術の着実な普及を図り、生産拡大につながるよう努める。 |
| 事後 | 果樹における木材腐朽病害対策技術の調査・研究 | A | A | H26～29 | ・木材腐朽菌の樹体への侵入防止手段については、基本的に傷口への塗布殺菌剤処理の励行としているが、樹体内に侵入した木材腐朽菌の殺菌方法の研究と併せて（国研）農研機構や他県の研究機関との情報交換等を通じて共同研究の課題として実施を目指したい。 |
| 畜産部会 | 事前 | 新生子豚のストレス軽減に配慮した豚飼養管理技術の確立 | A | A | H31～33 | ・研究成果を定着させるには、今後、関係機関と連携し作業効率やコストなど残された課題の解決を図るとともに、農場ごとに飼養環境等が異なるため、各農場に適合した具体的な方策を講じていく。  ・平成31年度新規課題として予算要求する。 |
| 事前 | 肉用牛ゲノミック評価を活用した「とやま肉牛」改良促進技術の開発 | A | A | H31～33 | ・研究成果については、普及センターの肉用牛技術改善総合システム（BTTS）に組み入れて、家保や普及センターと連携した総合的な指導を実施することを検討する  ・平成31年度新規課題として予算要求する。 |
| 事後 | ドライエイジングによるプレミアム牛肉の生産技術の解明 | A | A | H27～29 | ・県産牛肉の高付加価値化やブランド化を図るため、廃用牛の利用やコストなど残された課題の解決を図るとともに、関係機関と連携し研究成果や安全性等の情報提供や現場指導に取り組んでいく。 |
| 事後 | 肉用肥育牛向け大麦わらサイレージ給与技術の確立 | A | A | H27～29 | ・今後、耕種農家とのマッチングについての具体的な方策やコストなど残された課題の解決を図るとともに、関係機関と連携し畜産農家への情報提供や現場指導に取り組んでいく。 |
| 食品加工部会 | 事前 | 県産農林産未利用資源の有効利用技術の開発 | A | A | H31～33 | ・これら未利用資源の利用法について、実用現場で対応可能な容易で安価な方法を考慮しながら技術開発を進める。  ・各現場での供給量を考慮し、それぞれの経営体に適した技術開発を行う。  ・本課題で扱うβグルカン、ギャバやケルセチン等の機能成分については知名度があり、それらの健康機能性がアピールできるように商品開発を行う。 |
| 事前 | 県産清酒の輸出対応高品質化技術の開発 | A | A | H31～34 | ・生酒の保存性については、県内メーカーの技術力と輸出国での流通の制約条件等を考慮し最適な条件について検討する。  ・生もとに適する乳酸菌の性質は、アルコール耐性が強くなく、発酵初期に乳酸を大量に生成するものが適している。  ・海外での県産清酒の競争力強化に向けて、輸出を考えている県内酒造会社の要望を受けて、本課題を設定している。 |
| 事後 | 地場産原料を利用した漬物製品の高品質化と新製品の開発 | A | A | H27～29 | ・製品開発はできたが、普及についてはこれからであるため、赤かぶ、玉ねぎについてそれぞれ南砺や砺波地域など、産地の加工グループなどを中心に普及する。  ・味については、評価会などにおいてアンケートを基に製造現場で調整する。  ・ケルセチンについては、大手企業が機能性成分としてPRするなど、ある程度認知度は高いと考えており、本県の玉ねぎ製品についてもPRに努める。 |
| 森林  　・  木材部会 | 事前 | 県産スギ材を使用したリフォーム用建築部材の開発 | A | A | H31～33 | 川上から川下（市場、消費者）までの理解を得て、連携した一貫システムとして構築していくことが望ましい。意匠・デザインについては専門家の協力を仰ぎ、研究については木質材料としての性能を具体的に重視して、性能と施工方法を専門家向けて、県産スギ材を利用したリフォーム用建築エレメント(部品) として提示できるようにする。また、リフォームの対象を具体的に、例えば、町屋などに絞って機能・価格等も考慮して研究開発に当たる。 |
| 事後 | 里山における機能性きのこカワラタケの栽培技術の開発 | A | A | H27～29 | 普及用のマニュアルなどを通して、カワラタケの資源利用、残材処理技術とともに、爪楊枝を使った種駒作成など簡便、安価な生産方法の普及をはかり、地域での実用化、定着や産業としての可能性を検討していく。 |
| 事後 | 大径材の構造利用技術の開発 | A | A | H27～29 | 成果の普及について早急に取り組み、広く活用してもらうことにより、県産材の利用拡大につなげてほしい。さらに、実践的な場面へ切り込んで行くことで、得られたデータを活用できる製材システムの構築や、中規模の木造建築物を建造するなど、実証的な展開へ進むべく現場とのタイアップについても検討することで、ボカスギの伐採集積から利用までの良い循環ができるように取り組んでいく。 |
| 水産部会 | 事前 | キジハタ漁場整備調査研究 | A | A | H31～32 | ・ 超音波発信機を用いた行動追跡調査では、受信機の設置場所や放流場所についてよく考慮し、放流魚の行動範囲や移動を詳しく解明できるようデータをとる。   放流魚と並行して成魚の生息状況や漁場、漁獲条件についても調査したい。  ・ 33年度以降も漁場整備や放流効果に関連する研究を継続的に行いたいと考えている。 |

**評価の区分**

（１）事前評価：新規に実施しようとする課題について、必要性や貢献可能性、研究内容が適切であるか等について予算要求前に評価を行う。

（２）中間評価：原則として５年以上の期間にわたる課題について、原則として開始後３年目毎に試験研究の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、研究内容が適切であるか等について評価を行う。

（３）事後評価：試験研究が終了した課題について、原則として終了年度にその研究成果について評価を行う。

（４）追跡評価：試験研究が終了した課題について、終了後数年後にその研究成果の普及状況や貢献度について評価を行う。

**部会・外部委員会評価における評価基準**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 事前評価 | 中間評価 | 事後評価 | 追跡評価 | |
| A | 優れている | 優れている | 優れた成果が得られた | a | 貢献度は高い |
| B | 妥当 | 妥当 | 良好な成果が得られた | b | 貢献度は妥当 |
| C | 部分的見直しが必要 | 部分的見直しが必要 | 予定された成果にはやや至らなかった | c | 貢献度はやや低い |
| D | 全面的見直しが必要 | 全面的見直しが必要 | それほどの成果が得られなかった | d | 貢献度は低い |
| E | 実施せず | 中止 | 成果が得られなかった | e | 貢献度は非常に低い |